



国際通貨研究所メールマガジン (第 12 号 2013/3/12 発行)



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

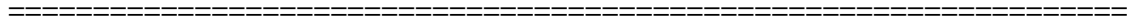


<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。



==

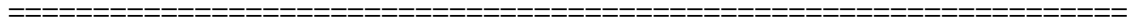
1. 理事長 行天豊雄のコラム 『通貨三国志』

イタリアの政情不安でヨーロッパ情勢がまたおかしくなってきた。まあイタリア人はこういう「危機」には馴れっこになっているから、連立構想がどう展開しても本当の破局に陥ることはない。かと云って、事態が劇的に改善する…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/gyoten20130312.pdf>



==

2. 専務理事 渡辺喜宏のコラム 『日本の TPP 交渉参加に向けて』

TPP 交渉には、極めてセンシティブなテーマがあり、交渉参加の入り口を通るのに政府は苦心していた。安倍首相の訪米と、その後の国内の根回しを経て、近く交渉参加の正式表明が想定されると言う。主要経済団体は、これを…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/watanabe20130312.pdf>

■ 今月の新着レポート

1. 「支援要請を巡って揺れるスペインの現状」

スペインは当面厳しい経済状況が続く事に加えて、地方政府の反発や ECB への OMT (国債買取の枠組み) 申請を巡る政府の先送り対応などの不安要因を抱えている。このような状況で、今後同国への市場の信認が安定するかどうかは不透明な状況にある。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_07\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_07_j.pdf)

2. 「トルクメニスタンの現状と課題」

トルクメニスタンは世界第 4 位の天然ガス埋蔵量を有するが、余り情報のない国でもある。同国の現状と今後について、いわゆる「シェール革命」の影響も含め考察してみる。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_06\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_06_j.pdf)

3. 「アジアの地場格付機関の問題点 ～社債取引推進のために必要なものとは～」

格付機関に関する諸問題を解決することは、社債市場の機能を高め、クロスボーダー取引の拡大を通じたアジアの社債市場の更なる発展に欠かせない課題である。各国の政府・民間機関は、倒産法などの現地法制、商慣行、財務データの公開基準などが国によって異なることにどう対処するかも含めて、積極的に取り組む必要がある。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/232.pdf>

4. 2012 年 10 月 2 日開催の国際シンポジウム (英語版のみ)

「持続的成長と金融の安定 ～社会・経済ガバナンスへの教訓～」

「Sustainable Growth - Financial Stability: Current Lessons for Social and Economic Governance」

昨年 10 月に開いたシンポジウムの講演、議論、質疑応答をまとめたもの。持続的成長、金融の安定、社会経済ガバナンスのありかた等について、世界各国の政・財・学界から識者が集まり、様々な立場から議論を展開した。

[http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP\\_No23\\_e.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP_No23_e.pdf)

#### 5. 「トルコ経済の現状と注意点

～気掛かりな経常赤字体質と証券投資中心のファイナンス～

トルコは、地政学的な要衝に位置するという従来からの強みに、政治の安定と効果的な経済政策が加わり、長期にわたり拡大を続けてきた。ただし、拡大を続ける経常赤字とそれに伴う通貨安の可能性には注意が必要である。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_05\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_05_j.pdf)

#### 6. 「拡大するオフショア人民元市場と東京市場の将来」

中国本土や香港以外にも人民元決済を行う国・地域が急速に拡大してきている。日本にとって人民元国際化の勢いを東京市場の活性化に取り込む戦略は十分検討に値する。それは円の国際化にとっても新たなモメンタムとなりうる。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_04\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_04_j.pdf)

#### 7. 「グローバル金融危機とインドの銀行セクター」

グローバル金融危機ではインドも限定的ながら影響を受けた。欧州債務危機ではインドの国内要因もあり、実体経済は予想以上に減速した。しかし、銀行セクターは 1990 年代以降の金融改革による体質強化や中央銀行による厳格な監督により健全性を維持している。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/231.pdf>

■ 今月の IIMA

3 月 4 日に開催した、第 22 回国際金融シンポジウム「確かな未来に向けた成長

への舵取り～喫緊の処方箋と長期的課題」は、お陰様をもちまして盛会のうちに終了致しました。

当研究所（IIMA）理事長の行天がモデレーターを務める中、4名のパネリストによる講演と、パネル・ディスカッションが行われました。講演において、前 ECB 総裁のトリシェ氏は、欧州経済通貨統合（EMU）の機能強化に向けた問題整理と課題提示を行い、特に“fiscal federation by exception”という考え方を強調しました。米国在住のエコノミストのキルケガード氏は、米国が今後直面する、高齢化に伴う労働人口減少および医療保障費増大の問題を中心に論じ、同国経済の中長期的なリスクに警鐘を鳴らしました。シンガポールの経済学者のテイ氏は、アジアが抱える課題として、域内間の政治的対立、国民の権利意識の高まり、経済発展段階のステップアップをとり上げました。また、同氏は ASEAN の中立性は、受け身の姿勢で維持できるものではないと発言しました。中尾財務官は、政府・日本銀行一体によるデフレ脱却策および物価安定のもとでの持続的経済成長の取組みについて、見解を述べました。

内容の詳細は後日、当研究所のホームページに掲載致しますので、どうぞご覧下さい。

---

次号：2013年4月10日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

[admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

◇発行◇+++++

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

+++++ Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.+++++